

コロナ禍（新型コロナ）によってもたらされる危機的な状況）何が出来るか。

令和三年八月十九日 於加茂法話会

新型コロナウィルスによる肺炎が世界中をゆるがしています。全地球的な規模で人と物の往来が禁じられて世界中が鎖国状態になり、経済にも甚大な影響をあたえています。ほんの少し前まで、こんな事態になるとは、誰も予想していませんでした。

スペイン風邪は（1918年1月から1920年12月にかけて）、当時の全人口の4分の1が罹患し、最少で1700万人、最大では5000万人が生命を奪われています。日本でも大流行し、5万人から8万人の方が亡くなっています。

仏教と天然痘はいっしょに伝来

欽明天皇の時代（509～571）に、百済から仏教が伝えられたと同時に感染症（疫病）がひろがり、『日本書紀』の「瘡（かさ）が出て死ぬ者があとを絶たない。その死にさまは生きながら焼かれるようであり、その痛苦は打たれて粉々にされるようである」『天然痘』、その後、天平年間（735～757）に大流行したときには、総人口の25～35%に相当する100～150万人が死亡したと推定されています。聖武天皇は仏教に帰依し、仏教による救済を願って、東大寺の大仏建立を思いついたのです。

『日本書紀』巻廿二を読むと、飛鳥時代に、ハンセン病と思われる記述が見出せます。推古天皇元年（593年）に、聖徳太子が飛鳥に『四天王寺四箇院』を建立しているのです。ペスト、クマネズミについたノミによって媒介され、「黒死病」。『コレラ』SARS（サーズ）コロナウィルス、エボラ出血熱等、宗教は病気を癒すことによって繁栄し、逆に病気を癒やせないことによって衰退してきたのです。

電話による「声かけ」のすすめ

濃厚接触は厳禁なので、直接「声かけ」はできません。しかし、文明の利器を使えば、なんとかなります。具体的にいえば、電話による「声かけ」です。

三黙堂（浴室 僧堂 西浄）

『正法眼蔵三十七菩提分法』「僧の務め」とは、「僧堂」の中での鍛錬（坐禪）なのであるし、仏殿の中での（仏への）礼拝なのであるし、「後架」、「僧堂の後ろに架け渡して造られている洗面所」の中での洗面なのである。

雪隠について

雪隠（せっちん）とは、便所のことをいう。語源は、禅寺で便所を意味する「西浄（せいちん）」から、あるいは、中国の雪竇（せつとう）という禅師が便所の掃除を担当していたという意味の「雪隠（せついん）」からきている